本願寺新報
hongwanji journal
3月1日(水曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) ／ FAX075(341)7753

創業1400有余年の寺社建築技術
金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731

トップニュース

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要

立教開宗の書『教行信証』撰述の意義

岡村喜史
本願寺史料研究所
上級研究員

本年は親鸞聖人がご誕生されて850年、来年は立教開宗800年にあたることから、本山では3月29日から親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要を営む。立教開宗の年は、親鸞聖人の主著『教行信証(顕浄土真実教行証文類)』が成立したとされる元仁元年(1224、聖人52歳)と定められる。慶讃法要を前にあらためて『教行信証』撰述の意義を本願寺史料研究所の岡村喜史上級研究員に執筆してもらった。

「わが元仁元年」

私たちが阿弥陀如来の本願を信じて念仏させていただくという浄土真宗の教えを開いてくださったのは、親鸞聖人です。親鸞聖人は『教行信証』(正式には、『顕浄土真実教行証文類』)にこの教えをまとめられました。

親鸞聖人がいつ『教行信証』を著されたのかについては、そのなかの「化身土文類」からわかります。ここには、お釈迦さまが入滅されてから、正法・像法を経て末法の世に入ったとされる年代を計算した部分があります。これによるとお釈迦さまの入滅は、中国の周王朝の穆王の53年(紀元前949)で、その年から自身がいる「わが元仁元年」までは2173年が経過しており、この年は末法に入ってから673年になると記されています(註釈版聖典417ページ)。

このように親鸞聖人は、『教行信証』のなかで「わが元仁元年」と、自身がいる年をはっきりと記されていることから、元仁元年(1224)が『教行信証』撰述の基準になる年とされています。

『教行信証』は大部なお聖教で、その内容は論理立てて記述されています。このことから、親鸞聖人のなかで、浄土真宗の教えがこの時点で、全体の構成が論理的に体系立てて整理されていたため、その撰述が可能となっていたのです。

親鸞聖人は、『教行信証』の「教文類」の冒頭で、「つつしんで浄土真宗を案ずるに」(同155ページ)と書いて、「教行信証」が「浄土真宗の書」であることを位置付けておられます。ただここでいう「浄土真宗」とは、法然聖人の開いたお念仏の教えのことなのです。

それでは親鸞聖人は、なぜこの時、このように大部な聖教をまとめられたのでしょうか、その目的について考えてみたいと思います。

親鸞聖人は、短い期間で法然聖人の専修念仏の教えをきっちりと理解されており、そのことを法然聖人から認められたのです。

親鸞聖人は、『選択集』の書写と法然聖人の真影の制作が許されたことを「『教行信証』のなかに「これ専念正業の徳なり、これ決定往生の徴なり。よりて悲喜の涙を抑へて由来の縁を註す」(同473ページ)と書いて、自身が法然聖人の教えを忠実に受け継いでいることを表明しておられます。

その後、親鸞聖人は承元元年(1207)の専修念仏停止による「承元の法難」で、越後に流罪となられます。建暦元年(1211)に赦免されましたが、京都には戻らず常陸国(茨城県)稲田に移られ、ここを中心にお念仏の教えを広められました。

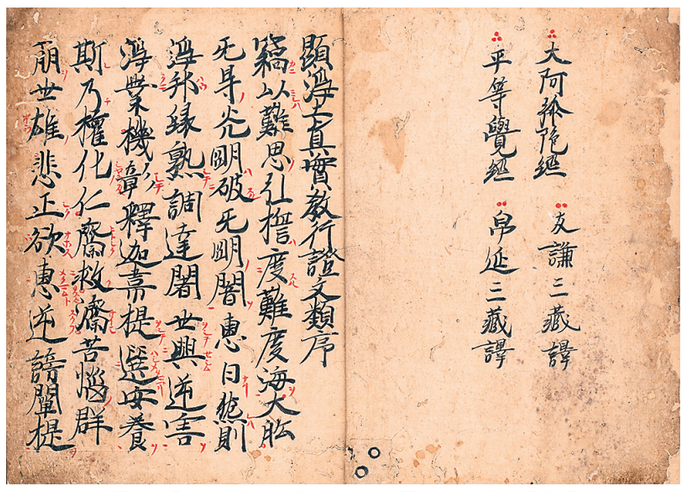
建暦2年(1212)に法然聖人が亡くなられた後、法然聖人の教えを少しずつ独自的に解釈していく門弟も出てくるようになりました。こうしたなか、比叡山が法然聖人の門弟たちを警戒し、再び専修念仏を禁止するように動き出しました。そして「元仁元年」の3年後にあたる嘉禄3年(1227)には、本格的な弾圧が起こっています。「嘉禄の法難」です。

関東で暮らす親鸞聖人は、このように進む専修念仏への弾圧を危惧して、本当の法然聖人の教えが間違ったものではないと示す必要性を感じておられたのでしょう。それは、法然聖人の門弟たちに、親鸞聖人が法然聖人から受けた真髄の教えの内容を、自身の論理構成に基づいて示すことを考えられたからです。

また、「元仁元年」は法然聖人の13回忌にあたる年ですから、『教行信証』撰述には法然聖人のことを意識しておられたことがわかります。ただ、親鸞聖人は、『教行信証』をまとめるにあたって関東在住期だけでは完成に至らず、60歳を過ぎて京都に戻った後も、完成のために加筆修正を続けていかれました。

法然聖人の教えを受けた門弟たちから、さまざまな解釈が出てくるなか、親鸞聖人は、法然聖人が説かれた念仏の教えの真髄は、阿弥陀如来の本願のはたらきであるとして、『教行信証』を撰述し、その聖教を「浄土真宗の書」と位置付けられました。

この『教行信証』撰述があったからこそ、浄土真宗が広まり、今日まで伝わっていると言えるのでしょう。



本願寺が所蔵する鎌倉時代に書き写された『教行信証』。
写真は冒頭となる「総序」の部分

念仏の教えを正しく伝えるために

なぜ親鸞聖人は撰述を？

親鸞聖人は、『教行信証』自体をすべて漢文体で書かれています。このことから、広く関東の門弟に向けて書かれたとは考え難いでしょう。すると親鸞聖人は、この時、誰に対して『教行信証』を撰述しようとされたのでしょうか。

建仁元年(1201)に比叡山を下りた親鸞聖人は、念仏を称えればどんな人でも平等に阿弥陀如来に救われるという専修念仏の教えを広めていた法然聖人のもとへ行かれました。

親鸞聖人は、法然聖人の教えをしっかりと受けとめ、4年後の元久2年(1205)には法然聖人が著した『選択集(選択本願念仏集)』を書き写すことを許されました。法然聖人にはたくさんの門弟がいましたが、法然聖人自身から『選択集』の書写を許されたのは親鸞聖人などわずかな人しかいなかったようです。

親鸞聖人は、短い期間で法然聖人の専修念仏の教えをきっちりと理解されており、そのことを法然聖人から認められたのです。

親鸞聖人は、『選択集』の書写と法然聖人の真影の制作が許されたことを「『教行信証』のなかに「これ専念正業の徳なり、これ決定往生の徴なり。よりて悲喜の涙を抑へて由来の縁を註す」(同473ページ)と書いて、自身が法然聖人の教えを忠実に受け継いでいることを表明しておられます。

その後、親鸞聖人は承元元年(1207)の専修念仏停止による「承元の法難」で、越後に流罪となられます。建暦元年(1211)に赦免されましたが、京都には戻らず常陸国(茨城県)稲田に移られ、ここを中心にお念仏の教えを広められました。

建暦2年(1212)に法然聖人が亡くなられた後、法然聖人の教えを少しずつ独自的に解釈していく門弟も出てくるようになりました。こうしたなか、比叡山が法然聖人の門弟たちを警戒し、再び専修念仏を禁止するように動き出しました。そして「元仁元年」の3年後にあたる嘉禄3年(1227)には、本格的な弾圧が起こっています。「嘉禄の法難」です。

関東で暮らす親鸞聖人は、このように進む専修念仏への弾圧を危惧して、本当の法然聖人の教えが間違ったものではないと示す必要性を感じておられたのでしょう。それは、法然聖人の門弟たちに、親鸞聖人が法然聖人から受けた真髄の教えの内容を、自身の論理構成に基づいて示すことを考えられたからです。

また、「元仁元年」は法然聖人の13回忌にあたる年ですから、『教行信証』撰述には法然聖人のことを意識しておられたことがわかります。ただ、親鸞聖人は、『教行信証』をまとめるにあたって関東在住期だけでは完成に至らず、60歳を過ぎて京都に戻った後も、完成のために加筆修正を続けていかれました。

法然聖人の教えを受けた門弟たちから、さまざまな解釈が出てくるなか、親鸞聖人は、法然聖人が説かれた念仏の教えの真髄は、阿弥陀如来の本願のはたらきであるとして、『教行信証』を撰述し、その聖教を「浄土真宗の書」と位置付けられました。

この『教行信証』撰述があったからこそ、浄土真宗が広まり、今日まで伝わっていると言えるのでしょう。

親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年
ご縁を慶び、お念仏とともに

第1期　3月29日(水)～4月3日(月)6日間
第2期　4月10日(月)～4月15日(土)6日間
第3期　4月24日(月)～4月29日(土)6日間
第4期　5月6日(土)～5月11日(木)6日間
第5期　5月16日(火)～5月21日(日)6日間

慶讃法要特設ページへはこちらから

団体、個人参拝申し込み受付中

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要の団体参拝（組や寺院などで編成）の2次募集を実施中。空席状況（毎日更新）は、宗派公式ウェブサイトの法要特設ページ（上にQRコード）で公開している。

また、個人参拝も募集中。法要期間中も空席があれば随時受け付ける。

空席状況を確認し、申し込みは参拝センター☎075(366)5882。

出勤僧侶を募集

慶讃法要の出勤僧侶（結衆・讃嘆衆・列衆）を募集している。結衆は巡讃許可申請資格の所有者、讃嘆衆は特別法務員、列衆は全僧侶が対象。詳しくは宗派公式ウェブサイト（「寺院関係者の方へ」から）、本願寺ホームページ・お西さん（「お知らせ」から）、「宗報」3月号。問い合わせは本山・式務部☎075(371)5181。

新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）

南無阿弥陀仏
「われにまかせよ　そのまま救う」の　弥陀のよび声
私の煩悩と仏のさとりは　本来一つゆえ
「そのまま救う」が　弥陀のよび声
ありがとう　といただいて
この愚身をまかす　このままで
救い取られる　自然の浄土
仏恩報謝の　お念仏

これもひとえに
宗祖親鸞聖人と
法灯を伝承された　歴代宗主の
尊いお導きに　よるものです

み教えを依りどころに生きる者　となり
少しずつ　執われの心を　離れます
生かされていることに　感謝して
むさぼり　いかりに　流されず
穏やかな顔と　優しい言葉
喜びも　悲しみも　分かち合い
日々に　精一杯　つとめます

赤光白光

友人との会話の中で、恩師のことが話題にのぼると、互いに口をそろえるように「厳しくて優しい先生」という思い出が出てくる。

▼厳しさと優しさということばは、一見大きくかけ離れた感を抱かせるが、実は互いによりそうような関係にも思えてくる。つまり、厳しさの中に優しさが、優しさの中に厳しさを感じとっていく世界が知らされるということである。本当の優しさは、厳しさの中から出てくるものであろう。恩師の姿を偲びながらそのようにも思えてきた。

▼「明来闇去」ということばがある。光によって闇が破られるという意味だが、闇があるから明かりがあると見ることができるのではないだろうか。また、闇をよく見るものは、光を見るともいう。闇は私たちの姿である。その煩悩具足の凡夫である私を見つめるということは、同時に仏さまの光の中に浴しているということである。短日植物であるアサガオは、夏至を過ぎて昼が短くなっていかないと花芽をつけることはない。朝の光を受けて咲くその前に、長くなっていく夜の闇の中で育てられているのである。

▼3月は別れの季節である。別れを悲しむということは、出会いのそのご縁を深く味わっているということであろう。親鸞聖人はその生涯の中で悲しみを深く味わわれた方である。そして、本願に出遇われ、導かれることにより、それを超えて生きる道を、力強く歩んでいかれた。私たちも聖人を慕い、み教えを聞いていく日々を送りたい。

慶讃法要に向けてのオススメ本

わたしの正信偈

玉木 興慈著

教えのかなめ

七高僧の道のり

親鸞聖人の主著『教行信証』の中で、浄土真宗の教えの要が120句で綴られる「正信偈」。その、読みやすく、わかりやすい解説書が新たに登場した。龍谷大学教授の著者が、独特の平易な語り口調で120句の漢文を味わい深く読み解いていく。

「依経段」とよばれる「正信偈」の前半44句が1冊目の『教えのかなめ』に、「依釈段」とよばれる後半の76句が2冊目の『七高僧の道のり』にまとめられている。全2巻どちらからでも読み始められる、やさしい正信偈のお話。姉妹誌「大乗」で2012年から7年間連載されたもの。

本願寺出版社刊。各1760円(税込)。

本願寺出版社 注文専用フリーダイヤル 0120-464-583

最新刊　帰京後の親鸞―明日にともしびを―⑦
七十九歳の親鸞
今井雅晴（筑波大学名誉教授）
山伏弁円・平塚の入道の没
法然聖人のもとに入門して五十年。他の法然門流の教義と展開を見た上で、前年執筆した『唯信鈔文意』の内容を検討、またこの年に往生した門弟、山伏弁円・平塚の入道の人物に迫る。
B6判・並製・112頁　1100円

聖人の晩年30年に迫るシリーズ《全15冊》予約受付中

浄土真宗本願寺派
日常勤行聖典
解説と聖典意訳
豊原大成（本願寺派元総長）編著
B6判・並製・120頁　330円
正信偈・讃仏偈・重誓偈・阿弥陀経・御文章に現代語訳を付す
法要の記念品・お扱いとしても最適
＊50部以上割引あり

＊価格はすべて税込　＊送料・発送手数料：ご注文合計6,600円未満＝一律400円、6,600円以上＝無料
合同会社 自照社　ホームページ：https://jishosha.shop-pro.jp
【大田利生先生 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉台4-3-7　電話：077-507-8209　FAX：077-507-9926

原木から製品まで、寺院仏閣のトータルプランナー
株式会社 あいぞの
株式会社 あいぞの寺社ラボ
大谷本廟様 新無量寿堂読経所御内陣納入
鹿児島別院様 慈光堂オリジナル納骨壇納入
■オリジナル納骨壇企画製作　■本堂現場漆塗・彩色工事
■本堂・納骨堂内部仏具設計施工　■寺院建築企画設計
■仏像・彫刻製作及び修復　■寺院建築修復・施工
■寺院用具一式　■寺院法規・資金計画相談
〒814-0004 福岡市早良区曙2丁目7番13号
フリーダイヤル 0120-168-940
HP:http://www.aizono.co.jp/

本願寺御香調進所
ほのかな香りを創って400余年
伽羅・沈香・線香　匂い袋・虫よけ香
香老舗 薫玉堂
〒600-8349
京都市下京区堀川通西本願寺前
TEL (075)371-0162
FAX (075)343-1459
創業文禄三年(1594年)

ブディストマガジン 大乗 DAIJO
本日発売！ 3月号
毎月1日発行
B5判／88ページ
年間購読料 4,500円(税・送料込)
1冊 375円(税・送料込)
好評連載
釈徹宗の随縁探訪
相愛大学学長の釈さんに、親鸞聖人の生き方やご生涯について話を聞きます。
●DAIJO法話 …… 大田 利生
●親鸞聖人いまさずは …… 池信 秀見
●マンガ お釈迦さま物語 …… 岡橋 徹栄×一ノ瀬 かおる
●教えて！浄土真宗 …… 藤澤 信照
●親鸞聖人からのお手紙 …… 佐々木 義英
●DAIJOコラム フォーカス仏教ライフ
その他好評連載コーナー多数！
本願寺出版社
0120-464-583
FAX 075-341-7753
〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/